

大阪 あんなとこ こんなとこ

『茶屋町』

若者の流行発信地として賑わう茶屋町。久しぶりに立ち寄った茶屋町は、静かな古い町並や石畳は姿を消し、そこでビルの建設が進んでいました。今回は変化する町、茶屋町が昔どついう所だったのか調べてみました。

料理茶屋

江戸時代から明治の始め頃の茶屋町一帯は、北野村と呼ばれていました。鶴が飛来し、春には一面の菜の花、秋には萩が咲く景勝地として知られていたそうです。明治33年（1900）になると地名が現在の茶屋町へと変わりました。茶屋町になった由来は、町を縦断する能瀬街道（池田街道）筋に、鶴乃茶屋、車乃茶屋、萩乃茶屋と呼ばれる三軒の料理茶屋があったことから言われています。

当時の鶴乃茶屋は、黒塀に囲まれた趣のある建物で、二つの大きな門があり、大阪の有力者や船場の旦那衆が駕籠で乗りつけ、四季の風情を楽しんだと言います。

北の九階・凌雲閣りょううんかく

当時、この地には料理茶屋の他にボート遊びができる人工池や温泉場、大弓場などを持つ有楽園という広大な公園もありました。明治22年（1889）、公園の中心に高さ130尺（39m）の凌雲閣が建ち注目を集めます。凌雲閣は、一、二階は五角形、三階から八階は八角形、九階部分には丸屋根の展望時計台からなる建物で展望台から市街地や大阪湾が一望できたそうです。『大阪繁昌誌』という書籍には「北部に聳ゆる九層の楼閣なり、一名を有楽園といふ。堂島の人、檀重三氏が、明治二十一年三月上棟式を行い、粗、落成するに及びて現今の所有者、鷲尾宇兵衛氏に譲る、九階の第一階は百坪にして高さ二十三間なり。苑内広く、四時の花木を栽て、人目を楽しましむ、観覧人一ヶ月平均五百人に上るといふ」とあり、高い建物が珍しいと大変な賑わいだったようです。そして、凌雲閣を「北の九階」、凌雲閣より少し前に出来た今宮の眺望閣を「南の五階」と称し、沢山の人が訪れたと言います。

百年以上も前に、この地に多くの人を惹きつけた一大娯楽施設があった事を知り、驚き、この頃から通称でキタとミナミと言われていた事に興味を持ちました。何処を基点にキタとミナミに分かれるのか引き続き調べてみようと思います。



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞